

やすらぎの じぞうもじをあなたに

五年目の3.11

時間は休むことなく時を刻み、東日本大震災から五年目を迎えました。

今年も石巻市役所一階、へイセイドラックストアさんの前で手書きのポランティアをさせていただきました。五年の時が過ぎてゆく中で、ご希望なざる文字によって人々の心の変化を感じています。震災当時は、「希望」

や「絆」の文字を求める方が多くいらつしやいました。生きることに、命があることの意味を容赦なく突きつけられ、そのままの文字が厳しい現実を示していました。

復興を肌で感じられるようになると「健康」という文字を数多く依頼されるようになりしました。今年も100名ほどの方へ手書きをい

たしましたが、中でも一番多かったのは「笑顔」でした。ある女性が言いました。

「今、献花台で泣いてきたばかりなのに、この文字を見ていたら顔が自然と笑顔になってるわ。」笑顔になると自然と元気な気持ちになれることから人々は笑顔という文字を求めたのでしよう。

「名前」を書いて欲しいと言うご希望も多くあります。震災で亡くなったご家族の名前であることも多いのです。じぞうもじで人々の心に寄り添えることの有りがたさを改めて深く感じる時でもあります。これからも、毎年3月11日は私の命がここに有る限り手書きのポランティアを続けていきたいと、この日を重ねる度に強く思います。

NO. 10
2016年4月1日発行
発行者 夕深
981-1107
仙台市太白区
袋原郵便局留
問い合わせ先
090-6221-6611

私たちの小さな祈り

「いつてらつしやい」「おかえりなさい」「いただきませう」毎日の生活の中で欠かせない言葉です。「いつてらつしやい」と言葉に出して送り出す小さな言葉は、無事を祈る大きな心です。「お帰りなさい」を言葉に出して迎えるのは、無事で帰って来てくれたことへの感謝と安堵の心。祈りと言ふと、特別にどこかで手を合わせながら何かに向かって祈るようなイメージをしていますが、決して



いし祈るていまり

てそうではなく、私たちが日々心を大切に生きる方ができるかどうかです。目に見えるものだけを信じ、見えないモノはわからないというのが現代の風潮になりつつあり、見えない心を安易に考えてしまう世の中になりがちです。私たちの日々の生活が修行そのものです。わざわざ修行僧にならなくても日々の生活の中で私たちは苦しいことや辛いことを通して多くを学んでいます。

ういのおくやま
けふこえて

もつとも短いお経であると言われる「いろは歌」には年齢を重ねる度に、その数少ない文字の中に込められた意味の深さを感じます。「いろはにはへとちりぬるを わかよたれそつねならむ」
(色は匂へど 散りぬるを 我が世誰そ 常ならむ)
美しく咲く花も時が経てば散りゆくように、人も同じである。
「うゐのおくやまけふこえて あさきゆめみしゑひも

今日越えて

せすん」
(有為の奥山 今日越えて 浅き夢見じ 酔ひもせず) の「有為」とは、因縁によって生じたことや、変化してやまない現実のさま、の意味で、今日もこれを取り越え、自然を受け入れる心になることで悩みと言うものはなくなっていくと、いろは歌は結んでいます。



じぞうもじ展



龍寶寺様のご厚意により今年も2016年じぞうもじ展を開催させていただく運びとなりました。今年も、喜びがいっぱいありますように、という願いを込めて作品作りに励んでいます。二日目は、フルート奏者、千葉展子さんの演奏をお楽しみ下さい。「ちびぐるみ」作家の藤村みゆきさんとのコラボ展示も実現しました。
■日時 5月3〜5日
午前10時〜午後5時
(最終日午後3時まで)

■4日フルート演奏
午後2時
フルート奏者千葉展子さん
ピアノ 船山育恵さん
■展示提供ちびぐるみ作家
藤村みゆきさん

気仙沼で手書き

■日時 5月29日 (日曜日)
■場所 補陀寺
宮城県気仙沼市古町2-2-51
■『補陀寺のマルシェ』
かもみぐるマーケットへ
2度目の気仙沼訪問です。
気仙沼の方々の交流を楽しみにしています。

毎月の手書き
秋保木の家さんで

毎月最終日曜日に秋保木の家さんで、手書きを開催しておりますが、5月の最終日曜日は6月の第一日曜日に変更となります。
□秋保木の家□
宮城県仙台市太白区秋保町
湯元馬乙2-1



『今後の予定』
◆4月24日 (日)
◆5月は無し
◆6月5日 (月)
◆6月26日 (日)
◆7月31日 (日)
■お問い合わせ先 ■
☎090-6221-6611

この「じぞうもじ新聞」はこれまでご依頼をいただいた方々やご縁をいただいた方へお送りしております。